

事故撲滅を目指して 交通安全宣言大会を開催

「市交通安全宣言大会・老人クラブ連合会交通安全教室」は9月22日、登米祝祭劇場で開かれ、交通安全協会、老人クラブ会員など約300人が参加しました。

大会は、秋の交通安全運動期間に合わせて、市民の交通安全意識の向上と普及を図ることを目的に開催。警察車両の出動式の後、会場では交通安全活動に尽力した功労者への表彰、老人クラブ連合会による交通安全宣言が行われました。佐藤秀佐警察署長は「県内の交通事故は減少傾向にあるものの、依然高齢者事故の割合が高い。交通ルールを順守し、官民一体となり事故を抑止していきましょう」と呼びかけました。



交通安全教室では、県警音楽隊の演奏や、新たに導入された高齢者ドライバーの運転技能検査などについて講話がありました。

爽やかな秋晴れ満喫 黄金色の中トレッキング

「宮城オルレフェア2022」は9月17日、登米コースで開かれ、市内外から62人が参加しました。

登米コースは田園風景や雄大な旧北上川の流れ、地域の歴史や文化にふれながら豊里公民館から平沼沼ふれあい公園を目指すコースです。参加者は澄み渡る爽やかな秋晴れの空の下、一面黄金色に輝く稲穂のじゅうたんに囲まれてトレッキングを楽しみました。小林江美さん(49)＝宮城郡利府町＝は「適度な起伏で初心者にも歩きやすいコースでした。秋らしい景色を楽しみながら日頃の運動不足も解消できました。特産品のプレゼントもうれしいですね」と話しました。



当日は特典として参加者全員に記念品をプレゼント。コースとともに菓子類などの特産品を堪能しました。

舞台に思いをのせて ドリーム☆キッズが公演



深い森に囲まれた小さな町で開かれる「星祭り」の夜。入ることを禁じられている森の奥で、おばけと出会った子供たちの波乱と感動の物語。

劇団ドリーム☆キッズ第20回ミュージカル公演「ゴースト☆マイフレンズ！～星祭りの夜に～」は9月10、11の両日、登米祝祭劇場で開かれ、2日間で751人が来場しました。

ドリーム☆キッズは市内および近隣の小中高生で構成するミュージカル劇団で、2002年に結成。現在28人の団員が在籍しています。今回、第20回目となる記念公演に向けて準備を進めていたさなか、7月の大雨で登米祝祭劇場の地階が浸水。公演で使用する衣装や小道具、練習室などが水没し使用できない状態に。困難な状況の中、団員や関係者らは、練習場所の確保や衣装の調達など準備に駆け回りました。迎え

た本番、団員たちは堂々とした演技で観客を魅了。2日間の熱演を繰り広げた団員たちに、観客から惜しめない拍手が送られ、鳴りやまない拍手の中で舞台は幕を閉じました。

団員の小野寺倭さん(18)＝登米町蛭沢＝は「卒団する自分にとっては集大成となる公演でした。寂しい気持ちはありますが、このメンバーで全力で楽しむことができよかったです」と笑顔で話しました。団員の成田小梅さん(17)＝米山町平塚＝は「ベストを尽くせて満足しています。来年はさらに感動を与えられるような公演を目指して練習を重ねていきます」と意気込みを見せました。

小杉さんの天気予報 中津山公民館防災講演会

「地域づくり研修会」(中津山コミュニティ運営協議会主催、久保泰宏会長)は9月18日、中津山公民館で開かれ、地域住民など約50人が参加しました。

研修会は、テレビなどでおなじみの気象予報士、小杉浩史氏を講師に迎え、「いのちを守る気象情報にするために」をテーマに講演会を開催。大雨や台風、それらに伴う気象情報や避難情報の収集方法などを、分かりやすくユーモアを交えながら話されました。川原美治さん(78)＝米山町千貫＝は「農家なので日頃から気象に関心があり参加しました。米山地区の気候の特徴なども伺えて、大変有意義でした」と話しました。



台風14号が近づいていたこの日。講話の最後には、リアルタイムの気象予報と解説もしていただきました。

音楽とともに学ぼう 未来に向けた認知症講座

第22回オレンジカフェ「癒しの音楽カフェ」(同実行委員会主催、代表山本直子)が9月20日、長沼ボート場クラブハウスで開かれ、約20人が参加しました。

会場では、「自宅介護の負担を軽減するため」をテーマにセミナーを開催。講話では、介護者負担の種類についての説明や認知症患者とのコミュニケーションの取り方などを学び、「頑張らない介護の工夫」について理解を深めました。また、尺八演奏者の平澤真悟さんとピアニストの山本直子さんのミニコンサートが開かれ、和と洋のデュエットの魅力的な演奏が会場を包み込みました。



参加者は、尺八の生演奏とピアノの心地よい音色に感動し、大きな拍手を送っていました。